

目的 流行衣服の採用者は、ロジャースモデルを用いてカテゴリー化されている。そのモデルでは、流行衣服を採用する時期によって、革新的採用者、初期少数採用者、前期多数採用者、後期多数採用者、採用遅滞者の5段階に分類されている。最近、D. U. Behlingはこれまでの流行衣服の採用に関する多くの研究を検討し、早期に採用する者（約20%）とそれより遅れて採用する者に2分されることを報告している。前報では、ロジャースモデルから誘導される質問項目への回答から5つのカテゴリーに分けられた採用者の流行行動を分析した結果、採用者は3カテゴリーに分かれることがわかった。本研究では、採用者を4つのカテゴリーに分けて測定した場合について検討した。

方法と結果 ロジャースモデルを5から4カテゴリーとした質問項目、「誰も着ていないときに真っ先に採用する（IN）」、「チラホラ着ている人を見かけるようになってから採用する（EA）」、「まわりの多くの人を採用する頃になってから採用する（EM）」、「新しいファッションはほとんど採用しない（LA）」への回答によって対象者を4つのカテゴリーに分けた。流行衣服に関する行動は10項目（5段階）を用いて測定し、各項目への反応の合計得点が、上記のカテゴリーに分類される採用者によってどのように異なるかを分散分析した。その結果、IN～LAの合計得点には違いがあり（ $P < 0.001$ ）、LA→INにしたがって流行に志向した行動をしていることが示された。しかし、IN～LAの各合計得点の多重比較を行ったところ、INとEA、EMとLAに違いは認められず（ $P < 0.05$ ）、この質問項目を用いてカテゴリー化すると、採用者は2分されるにすぎないことがわかった。